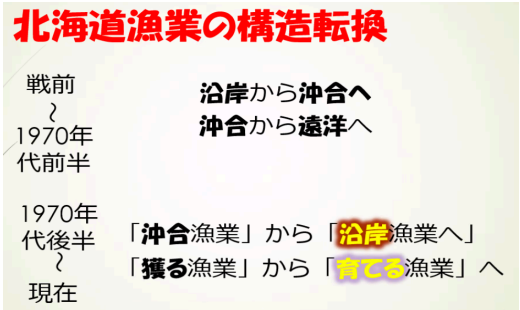
friendship force
SAPPORO

みんなのかわら版

No.18　　2021年12月3日 タベルナG発行

11月30日 タベルナG担当：Zoomによる講演会が開催され、21名の参加がありました。
演題は「北海道の漁業・水産業」　講演者は英語通訳案内士の椎谷泰世さん。
自己紹介から始まり、食の供給基地である北海道の漁業・水産業についてパワーポイントを使い、主要な産品のホタテ、サケ・マス、昆布を中心に漁獲量の年次推移や問題点を提示。日頃、漠然と知っていた種々の事柄を懇切丁寧なお話やクイズもあり、参加メンバーからは、昔を懐かしむ声や考えさせられたといった声が沢山ありました。
予定の時間をオーバーし、2時間はあっという間でした。

椎谷さん



参加・視聴の皆さんから感想をいただきましたのでいくつか紹介します。

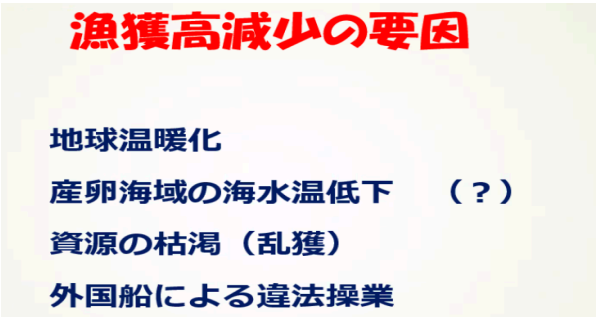
感想1:　子どもの頃、カニや、柔らか身欠ニシンや、数の子がおやつ。いつも食べられる環境にあった。

感想2:　箱買いしていたイカ、サンマが取れなくなっている状況が理解でき、また、いつの日か、と思っていましたが、もうそんな時代が来ないということが理解出来た。日々、食卓にのせる海産物をいただきながら感謝の思いを感じたい。

感想3：北海道の主要産業の漁業が大変なことになって来ている。日本人の魚離れ、世界は和食ブーム、皮肉な現実です。

感想4：主なサケ、サンマなど漁獲量の激減傾向を垣間見て、環境の変化だけで片付けられない。これから激減するかも知れない、昆布やホタテなど日本料理に欠かせない食材が自由に食べられなくなってしまう。漁業関係者だけでなく総合的な施策を取らねばとの思いを深めた。

感想5：S30年頃、札幌の中心地でリヤカーいっぱいに生きた大小のモガニを売っていた光景を記憶している。その後、資源枯渇で禁漁期間や小型のカニの販売禁止措置が取られたが、現在では高級食材になってしまった。　獲る漁業から栽培漁業への転換があるが、環境問題を含め、国内だけの問題ではなく、近隣諸国との話し合いが必須だと考えさせられた。



	日本	米国	豪州	ノルウェー
海洋水産資源の所有者	無主物占有	国民の負託を受けて国が管理	国/州民の所有付託を受けて国/州が管理	居住者の所有国が管理
水産資源・漁業・養殖業	×	○	○	○

（半田記）